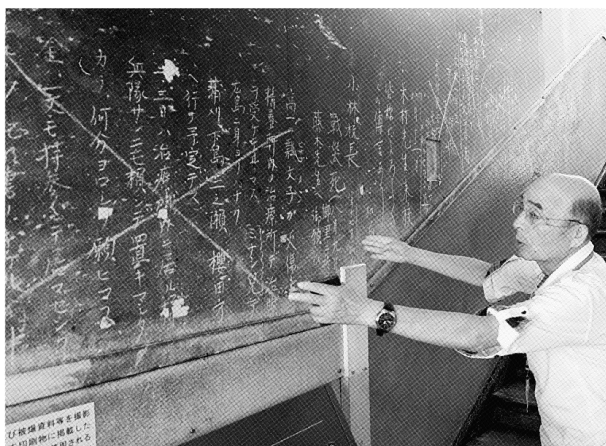


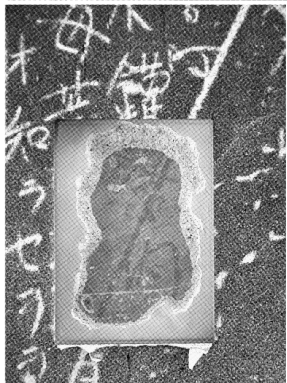
広島市は今年10月、インターネットで「ピースツーリズム」の推奨ルートの公開を予定している。旅のテーマは、平和を考えること。「文化」や「復興」など全4種類6コースがあり、徒歩や貸自転車で回れる。ひと足先に、平和記念公園の周辺約2.5キロを、徒歩3時間で巡る「被爆建造物コース」を体験した。
(文・写真 中咲貴稔)

広島市、10月スタート

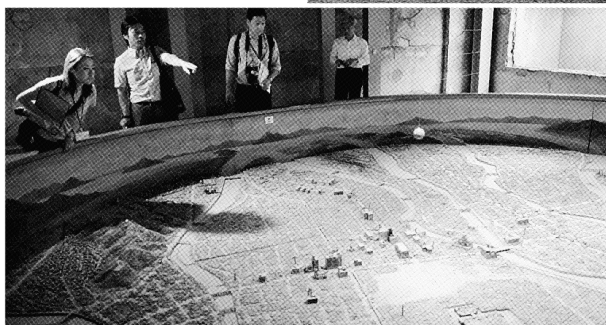
「平和」考え学ぶ旅を



①「被爆者の消息を知らせた伝言板」を説明する山本正敏さん。左は壁面に表れた「寮内」の文字＝広島市中区の袋町小学校



②被爆建造物の象徴として残る原爆ドーム＝広島市中区③平和記念資料館から移設された、被爆時の広島の再現模型＝広島市中区の本川小学校



焼けこげた校舎 戦災死告げる伝言板

「当時の建物を目で見て、足で踏みしめれば、何か感じるものがあるはず」。被爆後は被災者の救護所だった、袋町小学校から出発した。併設の資料館で案内役を務める山本正敏さん(77)が、壁に書かれた白い文字を指し示す。壁は当時の伝言板。10年前、壁面のしつこいの一部をはがしたところ「寮内」という文字が発見された。パネルで復元された部分からは、「戦災死」「文字が火傷」などが読み取れる。母親と見学中の村井優風香さん(10)＝東京都中央区＝は「科学を一度と悪いことに使ってほしくない」と話した。

コース上には、現在は文化行事に活用される旧日本銀行広島支店や、かつて物産陳列館として建設された原爆ドームなどがある。平和記念公園を散策し、原爆投下の目印にされた場所にほど近い本川小学校を訪れた。焦げた校舎の外壁は当時のまま、約400人のうち2人しか助からなかったという。

見学できた。校長の吉岡克弥さん(62)は「被爆建造物は、物言わぬ証人。少しでも多くの遺構を訪ねてもらい、被害の実態を理解してほしい」と訴えた。広島市によると、他に「被爆前後の文化・文学」「市民生活の復興」「被爆に関する資料館」のコースが計画されている。